

第3回みんなが使いやすいインクルーシブひろば会議 議事録

日 時：令和7年2月13日（木）

14時00分～15時30分

場 所：富山県防災危機管理センター
B609 会議室

1 挨拶

2 出席者紹介

3 情報提供

(1) 令和6年度利用促進事業の結果報告について

- ・今年度実施したアンケート調査、インクルーシブ DAY に関する報告
- ・「すまいるトイレ」について
- ・富山県インクルーシブ遊具 MAP について

(2) インクルーシブひろば遊具新設について

4 意見交換

●インクルーシブひろば遊具新設について

委員：新保小学校としても今回の件についてはとてもいい機会だと思っている。5年生（現4年生）を中心に考えてもらう予定だが、5年生がいくつかの案を提案し、全校生徒や保護者にもアンケートを取るなど、学校全体としてインクルーシブに対する理解を深められる機会になればと考えている。

また、小学校だけでなく、地域への発信が大切。保護者への理解がまだまだ浸透していないなかで、PTAなども巻き込みながら進めていきたい。

委員：社会福祉協議会では、昨年11月に空港スポーツ緑地指定管理者よりインクルーシブひろばに関する講演会を開催していただいた。講演会には自治会長も参加しており、地域には徐々に浸透しているように感じる。

委員：遊具の選定方法について、大人は既設遊具とのバランスや機能の分散（揺れる、回る等）を重視して考えがちだが、今回は子どもたちの遊びの体験の中から提案された遊具が選ばればより良い。

昨年度新保小学校で実施した特別授業は、大学としてもとてもいい学びがあった。小

学生は歳の近い大学生と一緒に活動することで、大人が関わるよりも素直に意見を出してくれる。大学としても今回の取り組みに協力したい。

また、保護者や地域の方からも愛される公園にしていくためには広報が大切。新しく遊具を設置した際は、昨年度実施した防災×インクルーシブのイベントのように、多くの人が関心を持つようなイベントとセットで広報していくと広く周知される。

委員：SNSで、インクルーシブひろばは小さい子どもが遊びやすい公園として紹介されている。

子どもたちへのインクルーシブに対する理解は浸透してきているが、保護者にはまだまだ浸透していないと感じる。障害児の保護者と健常児の保護者のお互いの理解がアップデートされておらず、お互いが遠慮している。

今回の取り組みを通して、新保小学校だけではなく、特別支援学校の児童やその保護者にもアンケートを取るなどして、より多くの人を巻き込んでいけばお互いの理解が深まるのではないかな。

委員：子どもは任されれば自分たちでできる力を持っている。子どもたちが主体となって考えたことは子どもたちの中でも記憶に残る。

特別な支援を必要とする児童は年々増えており、特別支援学校や支援学級の児童たちにも意見を聞きながら進めることができればより良い。

委員：特別支援学校には校外学習があるが、このひろばが目的地になれば利用促進にもつながる。

委員：色んな人を巻き込んで意見を吸い上げるのは良いことだが、特別支援学校の児童や支援を要する子どもは、想像だけでどの遊具が良いか考えるのは難しい。できれば、実際に遊具で遊んでみる機会があれば良い。

●今後の進め方について

事務局：これまで様々な利用促進事業を実施して、今回の遊具新設をもって、この会議の目的はおおむね達成できたと思っている。

ついては、今回もしくは来年度をもって本会議を終了させていただくことも考えているが、委員の皆様の意見を伺いたい。

委員：貴重な意見交換の場でもあるため、継続したほうが良い。

事務局：可能であれば新しい遊具を選定する前に、新保小学校でこの会議を開催し、子どもたちや大学生、興味のある一般の方にも参加していただけるような形態で、開催するのもよい。

委員：会議の中で、子どもたちが自ら考えた遊具の案を大人にプレゼンするのも良い経験になる。

新保小学校としては、来年度の5年生だけで終わるのではなく、インクルーシブに対する理解を広めるためにも、今後も継続して取り組んでいきたい。

事務局：遊具新設を進めるなかで、今後の会議のあり方や開催方法を検討したい。

5 閉会

以上